

TOKAS- Emerging 2025



井澤茉梨絵 奥村美海
高橋直宏 野村由香



2025.4.5(Sat)-

2025.5.4(Sun)

154 組の中から選ばれた、4 名の新進アーティストによる展覧会を TOKAS 本郷で開催

「TOKAS-Emerging」は、トーキョーアーツアンドスペース（TOKAS）が2001年より行っている若手アーティストの活動支援プログラムです。日本国内を拠点とする35歳以下のアーティストを対象に公募を行い、個展開催の機会を提供しています。

今回の公募では、ある環境の中で適応と反発を繰り返しながら自己を形成する生き物をテーマに絵画を制作する井澤茉梨絵、個人の生活の中で生み出される筆跡に興味をもち、それらを解体・再構成したインスタレーションを展開する奥村美海、インフラや通信技術等、システムの中で解体されうる身体を彫刻で表現する高橋直宏、炭鉱をモチーフにした作品をとおして自然と人のつながりを探る野村由香の4名が選出されました。絵画、彫刻、インスタレーション等、さまざまな表現による作品をご覧ください。また、会期初日には公募審査員をゲストに招き、出展作家とのトークイベントを予定しています。

新進アーティストの躍動の機会となる本展にぜひご期待ください。

展覧会概要

展覧会名：TOKAS-Emerging 2025

会期：2025年4月5日（土）～5月4日（日・祝）

出展作家：井澤茉梨絵、奥村美海、高橋直宏、野村由香

会場：トーキョーアーツアンドスペース本郷（東京都文京区本郷2-4-16）

開館時間：11:00-19:00（最終入場は30分前まで）

休館日：月曜日

入場料：無料

主催：トーキョーアーツアンドスペース（公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館）

ウェブサイト：www.tokyoartsandspace.jp/

関連イベント

アーティスト・トーク

2025年4月5日（土）15:30-17:30

ゲスト（敬称略）：福元崇志（国立国際美術館 主任研究員）、森 啓輔（千葉市美術館 学芸員）

< お問い合わせ >

〒135-0022 東京都江東区三好 4-1-1 東京都現代美術館内

トーキョーアーツアンドスペース（公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館）

広報担当：舟橋、市川、武智

TEL：03-5245-1142 FAX：03-5245-1154（2025年4月1日より03-5245-1140）E-mail：press@tokyoartsandspace.jp

本展の見どころ

見どころ1

時代を鋭敏に感じ取る若手作家の表現

TOKAS-Emerging 2025 では多数の応募の中から選出された若手作家が「個展」という形式で作品発表を行います。4名の精鋭による表現は、身の回りの出来事や世の中に対する率直で鋭い考察に満ち、見慣れているものにも新たな視座を与えてくれます。

若きアーティストはどのように世界を見つめ、作品として表現しているのか。

本展をとおして、これからの活躍が期待される新たな感性を体感いただけます。

見どころ2

造形作品を中心とした見ごたえのある展示

本展の出展作家は、絵画、彫刻等、手作業による造形表現を主体にしていることが特徴です。

井澤は複数のパネルを構成した大型絵画、奥村は筆跡をモチーフとした平面作品のパーツを吊り下げたインスタレーション、高橋はバラバラのパーツを組み合わせた人体彫刻、野村は石炭で描いたドローイング作品を集積させた大型の立体作品をとおして、それぞれが自身のテーマを探究しています。各作家の実践は、出来上がったものに自らの身体を介入させることでひとつの作品にする、という共通点があります。

デジタルメディアから情報を受け取ることが一般的になった現代において、周囲の環境や他者とのつながりについて自らの身体をとおして思考しようとする作品の数々は、私たちが生きる世界との関係を捉えなおすきっかけを与えてくれるでしょう。

見どころ3

TOKAS とともに歩んだ半年間の成果

公募にて採択された作家は、約半年の間、TOKAS と打ち合わせを重ねながら自身の展示を作り上げていきます。

作家はまず作品や展示の内容について、TOKAS 学芸員、他の参加作家の前でプレゼンを実施し、ディスカッションを行います。TOKAS は専門的な視点から作品コンセプトや空間づくりについて助言し、より完成された展覧会をとともに目指します。さらに同世代の他の作家との交流は新たな視点をもつきっかけとなり、生まれた関係性は作家活動の励みとなります。

また展覧会の会場施工や照明の専門業者による補助や、レクチャーの機会を設けることで、プロフェッショナルと共に展示を作るという貴重な経験を創出します。

今回の展覧会は、アーティストたちが TOKAS とともに歩んだ半年間の成果をご覧いただける機会でもあります。

TOKAS-Emerging とは

TOKAS-Emerging は TOKAS の前身であるトーキョーワンダーサイトで 2001 年に始まった公募から派生したプログラムで、35 歳以下のアーティストの才能を発掘し、今後の飛躍を後押しすることを目的としています。

当初は立体作品や平面作品が中心でしたが、近年はメディア・アートや、リサーチベースのプロジェクトによる応募も増加しています。

作品そのものから伝わる作家性、TOKAS-Emerging という機会を生かした今後の発展性を重視し、サポートを行うプログラムとして現在まで継続しています。

参加作家／広報用画像 ※詳しくは広報担当までお問い合わせください。

井澤茉莉絵 IZAWA Marie 「生き物の形、環境の形」

キャンバスをひとつの環境とみなし、その中での「適応と反発」をテーマに絵画制作を行っている。一定の枠組みの中で、種々の生き物は適応と反発を繰り返しながら生きるための身体を獲得し、同時にその環境のありようも、生き物の営みによって浮き彫りになる。本展で井澤は、ある環境、その周縁、そして同時に存在する異なる環境にまで関心を広げ、大型作品を中心とした複数の絵画による「展示空間」を新たな環境として作り出す。

■プロフィール

1992年生まれ。2017年京都市立芸術大学大学院美術研究科油画専攻修了。主な展覧会に「土の中にいる人」(space 楡形、東京、2024)、「巨人の化石と絞め殺し植物」(space 楡形、東京、2022)。主な受賞歴に「京都市立芸術大学 作品展」大学院市長賞(2017)など。



1.《巨人の化石と絞め殺し植物》2022



2.《冬眠》2024

奥村美海 OKUMURA Minami 「もも、Q うしゅう、32850日」

落書きや帳簿に書かれた線など、生の痕跡として個人の日常生活に強く結びついた筆跡を「マイクロレター」と名付けて収集・研究し、それらを解体・再構成した作品を制作している。本展で奥村は、90歳を迎える自身の祖父へのリサーチをもとに平面作品や映像によるインスタレーションを展開し、祖父と奥村の間に流れた年月から、時間の中の記憶と身体、筆跡と認知の関係性を探る。

■プロフィール

1999年静岡県生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程在籍。主な展覧会に「P.O.N.D. 2024」(PARCO MUSEUM TOKYO、東京)、「マイクロレター」(亀戸アートセンター、東京、2024)。主な活動・受賞歴に「公益財団法人クマ財団クリエイター奨学プログラム 6期」(東京、2022)、「令和5年度上野芸友賞奨学金」(2024)。



3.《Perspective structures of Palimpsest》2024



4.《帳簿二塩》2024
撮影：富田了平

高橋直宏 TAKAHASHI Naohiro 「インフラ・ヒュー / マンと3つのC」

身体の変異性と、それによる意味や認識の変化をテーマに、解体可能な人体彫刻を制作している。物流や通信技術の発展によって遠隔地でもコミュニケーションや作業を行うことが可能になった現代においては、身体の一部が切り離されてその場所で機能しているようでもある。高橋は本展でさまざまな制度や技術の中で切断、加工、再構成される身体に着目し、異なる作品を接合した人体彫刻によって、社会システムにおいて私たちを切断するもの、人間／非人間の関係をいかに表現するか検討する。

■プロフィール

1991年北海道生まれ。2020年金沢美術工芸大学大学院博士後期課程美術工芸研究科彫刻分野満期退学（博士号取得）。

主な展覧会に「AGAIN - ST ルーツ／ツール 彫刻の虚材と教材」（武蔵野美術大学美術館、東京、2022）、「群馬青年ビエンナーレ 2021」（群馬県立近代美術館）、「アートアワードトーキョー丸の内 2017」（新東京ビル、東京）など。主な受賞歴に「KANABI クリエイティブ賞 2019」学長賞（卒業・修了制作部門）など。



5.《聖別》2024



6.《死出のマヌカン》2024
撮影：宮崎竜成

野村由香 NOMURA Yuka 「光る山」

人智を超えたスケールで展開される自然の変化やその根底にある力について捉えるため、作家自身を動力とする装置を作品として発表している。本展で野村は、石炭の質感、時間や生命の蓄積に魅了されたことをきっかけに、北海道と九州の炭鉱でリサーチを行い、坑道をモチーフとした作品を制作する。石炭というエネルギー源をめぐる人間と大地の物語を表現し、人と自然の関係性について再考する。

■プロフィール

1994年岐阜県生まれ。2019年京都市立芸術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。

主な展覧会に「半井桃水館芸術祭 シャンデリア」（半井桃水館／宮谷の家、長崎、2024）、「神戸六甲ミーツ・アート 2024 beyond」（六甲高山植物園）など。主な活動歴に「KASHIMA 2023 BEPPU ARTIST IN RESIDENCE」（BEP.Lab、大分）、主な受賞歴に「神戸六甲ミーツ・アート 2024 beyond」神戸市長賞など。

助成：公益財団法人 松浦芸術文化財団



7.《Repetitive Activity in Toyama City》2023



8.《池のかめが顔をだして潜る》2022
撮影：栗田 猛

TOKAS-Emerging 2025

広報用画像申込書

Email : **press@tokyoartsandspace.jp**

トーキョーアーツアンドスペース広報担当宛

(ご希望の広報用画像番号にチェックを入れてください。下記の URL からダウンロードも可能です。)

1 2 3 4 5 6 7 8 ウェブバナー

<https://www.tokyoartsandspace.jp/press/form/18>

掲載媒体名 (特集・コーナー名)

種別 TV ラジオ 新聞 フリーペーパー ネット媒体 その他 ()

掲載/放送予定日 月 日 発売/放送 (月号)

貴社名

ご担当者名

Tel

E-mail (画像はメールでお送りしますので必ずご記入ください)

画像到着希望日 月 日 時頃までに送付

- ・ご記入いただいた個人情報は、お問い合わせ及びご要望に対応させていただき目的のみ利用させていただきます。
- ・お急ぎの場合はメールもしくは、お電話でお問い合わせください。

【注意事項】

- ・画像データは申請時の目的以外での使用はできません。ご掲載や放送以外の目的での写真のご利用はご遠慮ください。また、申請時とは別の媒体での使用、再販等の場合は改めて申請してください。
- ・画像データは、メールにてお送りします。お手元に届くまで1～2日(土日祝休み)ほど頂戴いたしますのでご了承ください。
- ・作品画像は全図でご使用いただき、トリミング、文字載せはお控えください。必ず所定のキャプション等を併記してください。
- ・提供した画像データは、使用後速やかに破棄してください。画像が無断で第三者に利用されることのないよう、Webサイトへのご掲載は、画像にコピーガードや転載不可の明記をしてください。
- ・情報確認のため、事前に記事原稿をお送りください。
- ・取材の内容が収録された番組等はビデオ・DVDを一部、印刷物(掲載誌・雑誌)については現物を1部もしくはコピーの場合は3部ご送付ください。Webサイトの場合は、掲載時にURLをお知らせください。

< お問い合わせ > ※校正ゲラ及び掲載誌紙・DVD等は下記宛にお送りください。

〒135-0022 東京都江東区三好4-1-1 東京都現代美術館内

トーキョーアーツアンドスペース (公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館)

広報担当: 舟橋、市川、武智

TEL: 03-5245-1142 FAX: 03-5245-1154 (2025年4月1日より03-5245-1140) E-mail: press@tokyoartsandspace.jp